

110921

校内研

9月21日 校内研究会

(教育指導課訪問)

中学年分科会授業提案

第3学年 国語科「わたしたちの学校行事」

指導者 鈴木 真

授業の流れ

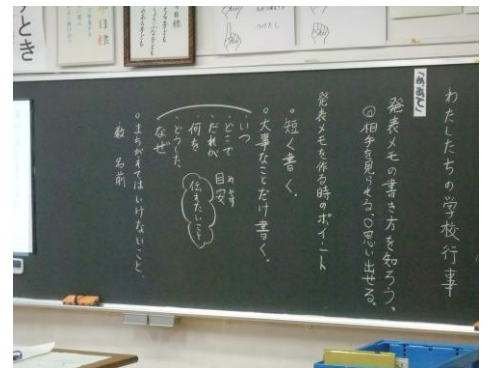
- 1 これまでの学習の振り返り
- 2 教師の発表を聞き、発表メモの大切さを知る。
- 3 実物投影機を使って、教科書の発表メモの例を見て、メモの書き方を知る。
- 4 自分の発表メモを作る。
- 5 本時のまとめ



協議会

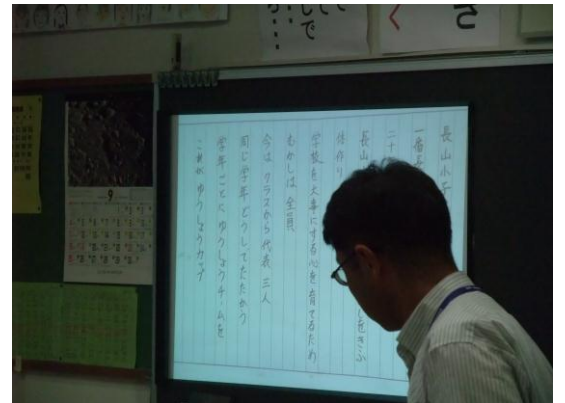
分科会提案

「進んで自分の考えや思いを発表する子」「自分の考えとの共通点や相違点を意識しながら聞く子」を目指す児童像とした。伝え合う活動を充実させるために、よい話し方のイメージをもたせるICTの効果的な活用、1対1・1対多などの話し合いをする場の工夫を行ってきた。



模擬授業

台風の影響で、5校時に研究授業を行うことができなかったため、4校時に繰り上げて行った研究授業の流れを模擬授業の形で行った。



協議

発表原稿に引いた赤い線の部分がメモの段階で短くなっていて、短くメモをつくるのが意識できていてよい。国語で学習した内容が、音楽の授業でも生きている。自分の考えを短くまとめたり要約したりする力が付いていると感じている。

赤い線を引く作業の間違い例を見せることで、どこに線を引けばよいのかを知らせる方法もある。

指導・講評

練馬区教育委員会教育指導科指導主事 古川卓也先生（3・4校時の授業について）

子供たちが落ち着いて集中して授業に臨んでいた。子供たちの意欲を高める教材が考えられていた。情報を共有でき、言葉だけでなく動きで児童の理解を補うことができるICTの良さを生かす方法を考えながら、日常的に板書を考えたり、教材を考えたりしているのではないか。板書や授業の構造の工夫を見て、研究を通して先生方の力が付いていることが分かった。

学びを深める土台作りがしっかりとできている。学習規律であるノートの書き方、チョークの使い方、定規、ホワイトボードを使ってモチベーシ



ョンを持続させる工夫がされていた。身構えだけでなく相手意識をもって聞くことや教材の準備という学習の3つの構えである気構え・身構え・物構えができていた。

練馬区教育委員会指導主事 深野義法先生

(3校時の授業について)

どのクラスも板書が研ぎ澄まされていた。説明などはICTを使っているが、大事なことは板書でしっかりと押さえられていた。

(4校時の研究授業について)

書くことから話すことへ変換していくメモの書き方を学習する時間だった。発表メモを作るときに構成メモを出してフィードバックすると話したいことがはっきりするのではないか。ほとんど全部に赤線を引いて、全部読んでしまった子も、作業を通して何が大事かに気づき、最終的にどこに線を引けばよいのかが分かる授業だった。

